

第5回 河内長野市学校給食のあり方検討委員会 議事要旨

日 時	令和4年2月25日(金) 午後7時～
場 所	市役所8階802会議室
出 席 者	委員：車谷会長、上代副会長、松原委員、室賀委員、宮阪委員、井上委員、高出委員、嶋田委員、山口委員 事務局：教育委員会事務局職員 傍聴者：6名
案 件 等	1. 議題 ①河内長野市学校給食のあり方検討委員会 答申書(案)について ②検討委員会スケジュールと協議内容について
資 料	(1) 第5回検討委員会次第 (2) 資料01:河内長野市学校給食のあり方検討委員会 答申書(案) (3) 資料02: 検討委員会スケジュールと協議内容  【参考資料】 ● 参考資料01: 河内長野市学校給食のあり方検討委員会 答申書鑑文 ● 参考資料02: 答申書添付委員名簿等について
会 議 内 容	
1. 議題	① 河内長野市学校給食のあり方検討委員会 答申書(案)について 【資料01を基に事務局が説明】
○車谷会長	事務局が作成いたしました答申書(案)を受けて、これから各委員の皆様1人ずつのご意見とか感想も含めましてお出しただけたらと考えております。 できましたら、私のほうから向かって左側の上代副会長から順にいきたいと思っております。よろしく申し上げます。
○上代副会長	全体的に、これまでの会議の中で委員の皆さんが出された意見が取りまとめられていると思っています。 ただし1点、表現の部分で、9. 検討報告まとめについて、「本検討委員会でまとめることは難しいという結果となりました。」のほうが良いのではないかと思います。 以上でございます。
○車谷会長	ありがとうございました。文言の修正が1点ありましたので、記録

のほうよろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして松原委員、お願ひします。

○松原委員

答申案を見せていただいて、この1年間の検討期間を振り返ったときに、今の中学校の課題というのは、全員給食の課題のみならず、様々な課題があると痛感しております。そのような課題がある中で、ただ全員給食の必要性というのはすごく感じています。ですので、できるだけそういう課題をクリアしながら解決していけたらと思っています。

確かに、中学校の全員給食が始まると、間違いなく教職員の負担は増加します。しかし、そうであっても、中学校の現場を預かる立場としては、この保護者の願ひというのを実施していけるように協力していきたいと思っています。

私も答申案のところで1か所だけ言わせていただきたいのは、10ページの5段落目、「しかしながら、市内小中学校の校舎・敷地の現状を踏まえると、無理に自校調理方式による調理室を整備することになれば」と書いていますが、無理にということ想定してやっていたのではなく、自校調理方式は自校調理方式として検討されたと思いますので、「無理に」という文言を消していただきたいと思っています。

以上です。

○車谷会長

ありがとうございます。ここでも文言の修正が入りましたので、記録のほうをお願いいたします。

続きまして室賀委員、よろしくお願ひします。

○室賀委員

僕も読ませていただいて、特に学校現場の人間として伝えなければいけないことがちゃんと入っているのかという目線で見せていただきました。今まで検討委員会の中で発言させていただいた言葉はしっかり押さえていただけていると思うので、特に僕のほうからこれについての反対意見等はございません。

ただ1点だけ、2ページ、恐らく第2回検討委員会で訂正が入っていたところで、全員給食は32で、選択制給食が11ですが、それがここに反映されていないので、よろしくお願ひします。

僕が気づいたのは以上です。

○車谷会長

では、修正のほうをよろしくお願ひいたします。

続きまして井上委員、よろしくお願ひします。

○井上委員	<p>皆さんで話し合った結果が出ているので、反対意見等はないです。</p> <p>初めて私がこの委員会にお声をいただいて、保護者としての立場で、自分の思っていることや、周りの保護者の方の意見をいろいろ聞いたりして伝えていけたらと思って参加させてもらって、メリットしかないとは最初は思っていました。しかし、先生方の意見や学校側の意見を知ることができて、いろんなことを皆さん考えられているのにすごく感動してしまって、私にとっても勉強になる委員会でした。ありがとうございました。</p> <p>以上です。</p>
○車谷会長	<p>保護者としての生の声が聞こえて、私も聞いていてうれしかったです。ありがとうございます。</p> <p>嶋田委員、よろしくお願いします。</p>
○嶋田委員	<p>この答申案については、全般、特に意見はないのですけれども、河内長野市内の小中学校の敷地に余裕のあるところって1校もないというわけではないと思います。それが複数校あるのであれば、例えば、4か所ぐらい給食センターを造って、その学校で作った給食を近隣の4校に配るとか、言わば名前をつけるとすると家族方式はどうでしょう。</p> <p>何を言いたいかという、河内長野というのは保育所のやり方も割と独自性がある、かつて全国からそれを視察に来ていたぐらいのまちだというふうに親世代から聞いています。なので、市役所、河内長野の職員さんのバイタリティーとか、そういった伝統の部分で、河内長野方式というところで、財政負担がより少ない方式を検討してほしいです。実際、コロナで職をなくしている人とか、割と困窮した状態になっている人が増えているように感じる、この委員会が始まったときは、別に全員給食にする必要はないと考えていましたが、昨今の情勢を見ると、全員給食にしないと救えない悲劇があると最近思うようになっています。</p> <p>ですので、この答申案については反対ではありませんが、河内長野方式ということで、河内長野らしさを出してほしいなど。それができるまちだと思っています。</p> <p>以上です。</p>
○車谷会長	<p>ありがとうございます。河内長野方式、色を出していったらというご提案でした。</p> <p>続きまして山口委員、よろしく願いいたします。</p>

○山口委員

「学校給食に関する栄養教諭の配置基準について」というところに、河内長野市ではどうなるかというのを載せてほしいです。あと、河内長野市の「各校舎の1階の教室については、毎年支援を要する児童生徒がいる場合があるため、優先的に普通教室での利用としている。そのため校舎1階の複数の教室を改修して行う調理場整備は検討しない。」という前提の条件が気になっていて、他市の学校で自校調理方式をしているところがどのようにしているのかを調査してほしいです。あと1校当たりの金額が、独立棟と校舎の中に入っての自校調理で全然違ってくるので、それを調べてほしいです。金額が変われば、今からでも自校調理方式がいいという人がいるかもしれません。

それと、7ページの6、各実施方式における経費についてというところに「河内長野市の中学生にとって望ましい給食」とありますけれども、これは小中学生もいけると思うので、小学生も付け加えてほしいということと、9ページの8、(1)は中学校ですけれども、(2)から下は小中学校もいけるので「学校給食の実現に向けた方向性について」と訂正したらどうかということと、10ページ、最後の検討報告のまとめのところで、「イニシャル・ランニングともに多額の経費を必要とするため、河内長野市に対してその財源の確保に努めることとともに、将来にわたる負債をできる限り軽減できる方法」というこの「方法」に、空き教室を利用した自校調理方式を引き続き検討することを希望します。

○車谷会長

何点か要望といいますか、こういう文言をというようなことが出てまいりました。よろしくお願ひしたいと思います。

○山口委員

追加ですみません。食物アレルギーの対応について何も載っていませんでしたので、それも載せてほしいと思います。

○車谷会長

事務局どうですか。今のここに記載されていない内容についての記載については。

○事務局

1点確認させていただきたいのですが、栄養教諭の配置の部分については、今の現行の栄養教諭の数を載せるということですか。

○山口委員

単独調理場では何名、共同調理場では何名のように、河内長野市ではこのくらい必要ですということ載せてほしいです。

○事務局	<p>基本的にはこの答申書については、今までの会議の中でご提示させていただいた資料や、議論してきた内容等について取りまとめている形になっていますので、新たに今まで表示されていなかった分は、形式的に難しいと考えます。</p>
○山口委員	<p>新たに調査して載せることはできないのですか。本当はこの検討の前の会議で、続きから始めたかったのですが、調査はもうできないということなのですね。</p>
○事務局	<p>例えば、栄養教諭の配置基準は、河内長野市の子どもの数によって変動してしまうものになっております。ですので、実際に中学校の全員給食までをする形が単独調理場なのか、共同調理場なのか、それがいつされるのかによって、当然いろいろと変わってきますので、資料提供としては、国の基準がこうです、検討会の中では口頭で、現在は大阪府から3名の栄養教諭が配置されています、というようなお話をさせていただきました。</p> <p>これを仮定で載せるとなれば、不確定要素を含むものを記載するというのが、私どもとしてはどうなのかなど。これは公表されますので、国で定められている基準がこうです、ただ、府の配置では少ないですよねというご意見もいただいたので、それについてはしっかりと記載させていただいています。例えば、令和3年度の単独調理場がもし全校にあるという過程で、本当に大阪府はその人数を配置してくれるのか。それも想像の話でしかないので、申し訳ないですが、ご理解いただきたいと思います。</p> <p>それから、もう1点、10 ページで、食物アレルギーのこともおっしゃっていただきました。資料としては、食物アレルギーについての説明も第2回のときには出させていただきまして、食物アレルギーに対してのご意見は十分いただいているような私どもの捉え方でしたので、過去のご意見を探って、記載に当たるか、内容を考えさせていただきたいと思います。</p>
○車谷会長	<p>よろしいですか。 では、続きまして高出委員、お願いいたします。</p>
○高出委員	<p>この文を読んで、いつも気になるのが、喫食率が5%と低水準というところなのですが、5%という理由がいろいろとあって、まずは手続が面倒。始めてしまったら簡単ですけれども。それと、中学生はみんなが取らないと自分だけは嫌だというのが一番多い現状であ</p>

るということを知ってもらいたいです。

あと、私、仕事柄、実習生がよく来るのですけれども、大阪府外から来ている子は、みんな中学校は給食でしたという子が多かったです。

みんなが一斉だったら喜んで給食を食べるけれども、選択制だったら周りを気にすると言っていました。やっぱり全員給食というのは、小学生とかがいる親たちに聞くと、小学生からそのまま中学生に上がるときにスムーズにいく引き継ぎで、そのまま何もしなくて、手続というものは小学校で1回してしまったら終わりの感じで始めてほしいと切に願っていました。

また、中学校からの給食で、教師の負担が増えるということを皆さん危惧していたので、まず始めるなら給食費の公会計化はぜひ実施してほしいと思いました。

以上です。

○車谷会長

ありがとうございます。

では最後、宮阪委員、お願いいたします。

○宮阪委員

答申案を見せていただいて、ずっと話をしてきたことを振り返りながら読みました。最初はやっぱり中学校の負担をすごく聞いていただいて、逆に保護者の方の、いろんな思いも聞かせていただいて、すごく私たちも勉強になりました。

今年になって特にSDGsが言われるようになって、持続可能な社会ということで、一人として取りこぼさないということでも、全員喫食は大事だということは再確認しました。文書の中にも、食育や地産地消も入れていただいて、エネルギーの削減や、メニューに食文化のことも入れていただいて、それをまたみんなで食べることができたらいいということは思いました。この答申案で結構だと思います。

以上です。

○車谷会長

ありがとうございました。

一通り皆さんの感想も踏まえたお考えや、質問等ございました。それから、文言の修正等もございました。言い忘れたこと等、ちょっと時間がありますので、ご意見等頂戴できたらと思っております。いかがでしょうか。

○嶋田委員

先ほど全員給食が実施されると学校の負担は間違いなく増えるとおっしゃっていたお話と、最近テレビか何かで見かけた学校の先生たちの給料、給特法というのがあるのですか。大正か明治ぐらいにできた

法律で、残業代は支払わないと。基本給の4%を付加して払うから残業代は支払わんという法律が今現在もあるのですか。それだったら、どなたかがおっしゃっていた公会計化を早く進めて、集金させるのにどれぐらいの先生に残業させるのかという話と、学校給食が増えたときに、その給特法が生きていれば、そこでも公会計化になって減った以上に負担が増えるのであれば、そこの配慮も踏まえて、河内長野方式というのを出してほしいと思います。

以上です。

○車谷会長

ありがとうございます。先ほどの河内長野方式の中身がちょっと増えたような感じですがけれども、おっしゃるように、現場の教員の負担感をどのようにして軽減していくか、法律も絡めながらいろんなご意見をいただきました。ありがとうございます。

ほか、ございませんでしょうか。付け加えとか補足であるとか文言の修正とかございませんか。

○事務局

1点、先ほど山口委員が、独立棟と教室内の調理場を設置した場合の経費、それはご感想というような意味で捉えさせていただいていいのか、実際に校舎の建屋自体を調理場にするために、可能かどうか調査するとなると、また別に建築のための調査が必要になります。今回は、一般的に調理場を自校方式として建てると仮定した場合でしか、調査ができなかったというところもあります。

実際、踏み込んでいくと、おっしゃるようなところも想定は必要だとは思っているのですが、ご感想としてしっかり受け止めさせていただきます。答申書のほうまでは、できる範囲を超えてしまうので、あくまでこの答申後に方式をどうするのかというところを、事務局等でしっかりと議論を深めていきたいと思います。

○車谷会長

山口委員、今の安田理事の説明でよろしゅうございますか。

○山口委員

はい。

○車谷会長

特にほかにご意見ございませんでしょうか――。

そうしたら、まとめさせていただきますけれども、今日ご提示いただきました答申書（案）について、一部に文言の修正があったと思います。そのあたりの修正につきまして、ご指摘いただいている、例えば日本語的な文言であるとか、そのあたりは修正可能でしょうか。

○事務局	修正は可能と考えます。
○車谷会長	<p>そうしたら、そこはちょっと再検討していただくということで、修正のほうをよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それから、先ほどいろんな感想も含めて要望等を出されておりましたけれども、この最終の答申案の中には、改めて検討が必要な部分は含まれないという形で、文言的には追加はしないという方向で進めていきますけれども、それもよろしゅうございますか。今書いたような内容で進めていくという形でよろしいでしょうか。</p>
○嶋田委員	私は異議ありません。
○車谷会長	<p>ほかの委員の方々、大丈夫ですか――。</p> <p>縦に首を振っていただいている方が圧倒的ですので、そういうふうな方向を定めさせていただきたいと思います。</p> <p>その修正した文言の文書については、これから事務局のほうでどのような形で提示されるでしょうか。</p>
○事務局	<p>方法といたしましては、もう一度皆さんにお集まりいただいて修正後の答申案を確認するという方法が1つと、修正の内容については、例えば会長に一任するという方法も考えられます。最終的にはその辺は皆さんのご意見で、その方法に従いたいと考えております。</p>
○車谷会長	<p>事務局からそのような提示をいただいておりますけれども、どうでしょうか。今出てきている文言の修正等ですので、改めてこのように会議をする必要はあるでしょうか。もしくは、例えば修正した文書を各委員の皆様配っていただいて、そして各個人で確認をいただいて、特に問題なければその形という方法も取れると思います。多分、もう一回会議をするということは、特に夜間、こういう形は大変だと思います。保護者の方もいらっしゃいますので。文書配付で確認をしていくという形でよろしゅうございますか。会議はしないで、その方向で確認をしていくという形で――。</p> <p>そうしたら、事務局のほう、そのような形で皆さんご了解いただいているようですので、よろしくお願ひします。</p> <p>とてもスムーズに会議のほうが進んでまいりまして、ほぼ一部修正という形で答申案を作成し直して配付するということになりました。事務局のほうに答申案の修正をよろしくお願ひします。配付方も確認方もできるだけ早く、よろしくお願ひしたいと思います。</p>

○事務局 委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。事務局で答申案の内容を精査いたしまして、再度個別にご提示をさせていただきます。

また、完成後の答申書には、今回の参考資料 01 として提示しています鑑文と、参考資料 02 として条例と委員名簿を添付しております。委員名簿に関しましては個人情報になりますので、委員全員の方の同意が前提となります。恐れ入りますが、名簿の掲載について、委員の皆様にお諮りいただけないでしょうか。

○車谷会長 今の内容、分かりましたでしょうか。答申書の案に今日お集まりの委員さんの名簿をつけて提出をするということでございます。そのあたりはいかがですか。大丈夫ですか。よろしゅうございますか――。

そうしたら、つけていただいても大丈夫ということですので、事務局のほう、よろしく願いいたします。

○事務局 本日の会議でいただきました答申案の修正したもの、それに今提示させていただいた鑑文と名簿のほうをつけたものを個別でご確認いただいた後に、完成後の答申書を車谷会長から教育長にお渡しいただくこととなりますが、事務局としては車谷会長に代表してお渡ししていただければと思います。車谷会長、ご足労をおかけしますが、願えますでしょうか。

○車谷会長 了解いたしました。それで結構かと思えます。

○事務局 ありがとうございます。日程につきましては別途調整させていただきます。

事務局からは以上になります。

○車谷会長 それでは、本日の議案につきましては全部終了でございます。第 5 回の検討委員会を終わりたいと思っております。進行を事務局のほうにお返ししたいと思います。

○事務局 では、今回で検討委員会を終了することになりました。お忙しい中お集まりいただきまして、また長期間にわたる議論を行ってまいりましたので、皆様から 1 人ずつご感想でもいただければと思いますので、いかがでしょうか。

○車谷会長           今回はこれで最終回になりますし、皆さんとお会いすることもあまりこれからなくなると思いますので、5回を通じての感想をお願いしたいということです。今度は嶋田さんのほうからいきましょうか。

○嶋田委員           河内長野の財政が大変厳しいというのは何年も前から聞いていました、全員給食の方向性についての検討委員会があるということで、これはぜひとも参加させてもらいたいということでメンバーに入れていただいたのですが、財政が一番気になっています。財政再建団体に仮にこの基礎自治体として陥った場合に、いろんな基本的な行政サービスは残るのでしょうかけれども、河内長野独自の付加サービスのものが、いろいろと無くなり、住みにくいまちに一気に変わるだろうと。

そんな事態になったとしても引っ越せない人たちが、河内長野市内に結構いると思います。

そういう立場から言うと、全体に関わるような悲劇的な状況にはなあってほしくないという思いで参加をさせていただいて、またいろんなご意見も聞かせていただきました。であるからこそ全員給食は必要だと理解はしているのですが、やっぱり河内長野の市役所としての伝統をもう一度思い出していただいて、河内長野方式をもう一度編み出してほしいと思います。

以上です。ありがとうございました。

○井上委員           私の願いはただ1つ、私たちの子どもたちの未来を皆さん考えていただいて、給食センターの方の仕事も少し知って、本当に皆さん子どものことを一番に考えてくださっていて、先生方もそうですし、周りの地域の皆さんも、この会を開くに当たって何を一番中心に考えているかといったら、やっぱり子どものことをすごく考えてくださっています。これから小学校、中学校、高校となる息子、娘も、給食を通じて、食育や地産地消の大事さを、親だけで教えていくことはなかなか難しいので、給食を通じて知っていつてもらえたらなというのがすごくうれしく感じています。ありがとうございました。

○室賀委員           ありがとうございました。なかなかこういう機会はふだんないので、すごく勉強になりました。まだまだ世間知らずなところもあるという反省にもなりましたし、やっぱり何よりも子どもたちのためになることというのを一番に考えたいというのはぶれずに、自分が教員になったときからその思いを持っているつもりなので、そういう形で進んでいけばいいなど。

答申を出して、この後どういう形で進んでいくか分からないですが、

給食が全てではないですが、それも大事な点だと思うので、子どもたちのためになることというのを何よりも願って、どうなっていくのかというのを今後見させていただきたいと思います。ありがとうございました。

○松原委員

2点ほど話させてもらいます。

まず1つ目は、我々教員になりたてのころは大分と経済格差があったのですけれども、また最近格差が広がってきていると思うときがあります。それで、僕は弁当給食に対するよさというのは十分分かっているつもりなのですが、時々男の子が自分で作ってきたであろうおにぎりを持ってきて、それを食べている様子を見ていて、それが悪いというわけではないですが、見ていてちょっとつらいなと思ったような場面もあります。だから、子どものために全員給食を実施してあげられるのだったら、我々も本当に協力できるところは協力させてもらうべきと思っています。

もう1点、1か月ほど前にPTAの会合をうちの学校で持ちました。そのときに、PTAの保護者から全員給食にならないのですかという質問が飛んだのです。その保護者たちの声は、来年か再来年かみたいな勢いのお話でした。私としては、市は今ずっとそれについて話し合いをしていますと。できるだけ全員給食の方向で今動き始めているようですよと。ただ、少し時間はかかるかも分かりませんという話をしました。

そのときに、多分、保護者としては、早く全員給食を実施してほしいというのを僕自身はその声で感じました。だから、我々も協力してやっつけていける中で、できるだけ保護者のニーズに沿えるようにやっつけていけたら一番いいと思っています。

以上です。

○上代副会長

小学校と中学校と両方経験もさせてもらって、かなり給食には関わってきたと思います。子どもも給食で栄養をばっちり取らせていただいていたということもあって、そういった経験が少しでもお役に立てればと思っていました。ここでいろんな立場の方のお話を聞いているうちに、学校のことはもちろん詳しく知っているつもりなのですが、それ以外の部分、例えば財政のこと等は非常に疎いということを実感いたしました。まだまだ自分自身勉強しなければいけないと感じました。

今日のこの最終の答申を見ながら改めて感じたのは、本当に給食があったらこの子救えたのにということをまた改めて考えまして、ここ

から全員給食という形で進んでいくのであれば、少しでも早く実施できるようにしていただけたらと願っております。ありがとうございました。

○宮阪委員

今、皆さんおっしゃっていましたが、やっぱり学校現場にいますと本当に経済面は疎くなっていて、すごく勉強させていただきました。ありがとうございました。

さっきもちょっと心配していただきましたが、人手不足は河内長野もあります。どうぞたくさん先生になってくれる人が増えて、マンパワーはすごく大事なことなので、たくさん先生が増えたらいいと思います。いろいろ勉強させていただきました。ありがとうございました。

○高出委員

河内長野市はすごくスピーディーというか、マイナンバーの発行でも、申請してからの発行が、ほかの市町村に比べて結構早かったし、10万円の給付のときも早かったし、子どもの高校生までの給付の10万円も早かったです。だから、この全員給食も早く実現してほしいと思いました。よろしくお願いします。

あと、公会計化がもし難しいようならば、子どもは何も罪はないので、全員に給食を与えるように、私自身は無料化にしてもいいと思います。そのくらいの勢いで河内長野の独自性を出して行ってほしいです。よろしくお願いします。

○山口委員

本当を言うと、まだ時間がある限り話し合いができると思っていて、張り切って来ました。それで、もう春休みに入るから、自校調理方式の栄養教諭の方に来てもらって話を聞いてもらおうとか、そういうことを言おうと思って来たのに、もう終わりと思って、ちょっと残念ですが、この給食、決まったら30年、40年先にも関わってくることなので、河内長野市の子どもたちに本当によりよい給食の実施を検討していただきたいと思います。よろしくお願いします。

○車谷会長

本当に皆さんのご協力で会議を進めていくことができました。去年の2月26日が1回目だったと思います。だから、本当にちょうど1年間かけて、間隔は空いておりましたが、前で皆さんのお考えとか思いを聞かせていただいています。非常に熱意ある方がたくさんおられるということを実感しました。やっぱり考え方はいろいろあると思います。それぞれの立場もあるし、思いもあるし、それをどこまで出せるかというあたりが魅力的なところだと思っています。ただ、本当は無制限に時間があって、もっともっと深くいろんなことを掘り

下げて話をしてやれたらいいのですが、なかなか限られた時間の中でということで、こんな形になってしまいました。

私は河内長野市民でありますけれども、私は勤務したのはほとんど河内長野以外です。大阪狭山市であるとか、今は河南町で勤務していますが、市民感覚として河内長野の教育はすごいと昔からずっと思っています。教育立市宣言とか、小中一貫校であるとか、それから学力についてもすごくエネルギーのある市です。特に教育委員会自身がすごく力を入れて、いろんなことを精力的にやっているという実感があります。そういう意味で、この学校給食、特に中学校給食について、新たな方向性を持ってこれから進んでいかれるという実感があります。

給食について話していったのだけれども、いろんな子どものことが分かってきたとか、学校の現場の様子も分かったとか、そういう意味ではこの会議はとてもよかったと思いますし、学校を、子どもを支えていくような大人でありたいし、地域でありたいと思っております。ぜひ、せっかくこうやって集まれた委員さんですので、これからも河内長野の学校教育をいろんな側面から支えていこうと、私自身、さっきから意見を聞いていて思うところが多いです。だから、引き続き河内長野の教育を進めていっていただきたいと思っております。市民としてもすごく願いを持っておりますし、私は今、学生を育てる、教員を育てる仕事をしておりまして、この状況の中で、現場に役立つような教員ってどんな教員だろうということも、皆さん方の意見を聞きながら、こういう視点もあるなとか、こういうことも教えていかなければいけないという実感を持った次第でございます。

本当に1年間、長期間にわたりまして忌憚のないご意見を聞かせていただきました。本当に私自身も勉強になりました。ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

そうしましたら、以上をもちまして第5回河内長野市学校給食のあり方検討委員会を閉会いたします。長時間にわたりありがとうございました。今後ともご協力いただきますよう、よろしく申し上げます。

これから、今日お集まりいただく機会が最後になってしまいましたので、一言、最後に事務局のほうからお礼を申し上げたいと思います。よろしく申し上げます。

○事務局

本当に長時間にわたりましてどうもありがとうございました。逆に事務局からの説明または資料提供、委員の皆様には不十分なところも

多々あったかと思えますけれども、この1年、運営を委託していました長大とともに事務局、精いっぱい頑張ってきたと思えます。また委員の皆様も、こんな遅い時間まで様々ご議論いただきまして、ぜひとも皆様のご意見をかなえられるような形で、これから中学校、または河内長野の学校給食、または河内長野の教育の発展を目指して頑張っていきたいと思えます。どうもありがとうございました。(拍手)

## 2. 閉会